

# One Man's Meat

## －ことわざのもじり（5）－落ち穂拾い－

豊田 一男\*

### One Man's Meat

#### － Gleaning of Parodied Proverbs －

TOYODA Kazuo \*

#### Introduction

This is the collection of parodied proverbs that have not been taken up in the previous essays in *Tsukuba Gakuin University Bulletins* No.1～No.4. The present writer takes up the following ten proverbs that are frequently parodied or punned.

- ・ Necessity is the mother of invention.
- ・ Rome was not built in a day.
- ・ Where there's a will, there's a way.
- ・ The pen is mightier than the sword.
- ・ One man's meat is another man's poison.
- ・ It is an ill wind that blows nobody good.
- ・ Imitation is the sincerest form of flattery.
- ・ It is more blessed to give than to receive.
- ・ Of two evils choose the less(er).
- ・ There are two sides to every question.

#### はじめに

筆者は『筑波学院大学紀要』第1集において、ことわざ“Old soldiers never die; they just fade away”に関する多くのもじりを取り上げた。第2集～第4集においては、金銭に関することわざ、動物に関することわざ、人とその生活に関することわざをそれぞれ取り

上げ、それらがどのようにもじられるかを見てきた。本稿はそれらから漏れたもので、比較的多く集まったものをいわば「落ち穂拾い」として取り上げることにする。

本稿では、上記の10のことわざ、そのもじりと日本語訳、そして必要に応じて、コメントを加えるという形で話を進める。しゃれ(pun)が絡むものは表面の意味に解釈した日

---

\* 名誉教授、Tsukuba Gakuin University

本語訳を出し、解説を加えて裏の意味の理解の助けとなるように努めた。

[ 1 ] **Necessity is the mother of invention.**

(必要は発明の母。)

( 1 ) **Necessity is often the mother of invention, but more often she is childless.**

(必要はしばしば発明の母だが、子供のいないことのほうがはるかに多い。)

「ある物がどうしても必要になった時それを何とかして考案しようとするものだ(戸田 (2003))」の意味で使われることわざであるが、発明の母に「子供がいない」ということは何の役にも立たない発明の方がはるかに多いということになる。

( 2 ) **How come, if necessity is the mother of invention, so much unnecessary stuff gets invented?**

(必要が発明の母であるなら、どうしてこんなに多くの不必要な物が発明されるのか。)

( 1 ) を分かりやすくしたものだが、面白味は減る。

( 3 ) **Bread is a necessity, and the computer is an invention. Necessity is the mother of invention. Therefore, bread is the mother of invention.**

(パンは必需品であり、コンピューターは発明品である。必要は発明の母である。故にパンは発明の母である。)

おかしい三段論法になっている。確かに、食えなければ発明もしていられない。

[ 2 ] **Rome was not built in a day.**

(ローマは一日にして成らず。)

難事業、大事業を達成するのは容易なことではないことを表すことわざ。

( 1 ) **Foreman:** Come on, get a move on with

that bricklaying.

**Bricklayer:** Rome wasn't built in a day, you know.

**Foreman:** That's because I wasn't the foreman on the job.

(現場監督と煉瓦積み職人の対話:「おい、さっさとその煉瓦積みをしろ」「ローマは一日にしてならずでさあ」「そんなことになったのはその時おれが現場監督じゃなかったからだ。」)

「俺がいなかったからローマは一日で完成しなかったんだ」という現場監督の台詞が笑いを誘う。

次は同工異曲。ジョークの世界では以下のような日常茶飯事である。ただし、どちらが先に作られたかは不明である。

( 2 ) **A bricklayer was continually being harried by his foreman to work faster.**

“Let up on us a bit, sir,” the worker finally protested, “Rome wasn't built in a day, you know.”

“Maybe not,” said the foreman, “but I wasn't on that site.”

(煉瓦積み職人は絶えず現場監督にもっと仕事を速くしろとしつこく言われていた。「ちょっとは優しい言葉でもかけてくださいよ」と職人は遂に抗議した。「ローマは一日にしてならずと言うじゃありませんか」「そうかもしれないが」と現場監督は言った。「だがな、おれはその現場にはいなかったんだ。」)

( 3 ) **Rome wasn't built in a day — they had their labor troubles too.**

(ローマは一日ではできなかった—彼らもまた労働争議をかかえていたのだ。)  
労使の対立は古代ローマの時代からあったことになる。

( 4 ) **Rome wasn't burned in a day. (Leo Rosten)**

(ローマは一日で焼き尽くされたのではない。)

ローマ皇帝ネロ (Nero) (37-68) は残虐非道で知られているが、ローマの大火災をキリスト教徒のせいにして彼らを処刑した。しかし彼が自分で火をつけそれを眺めながら弦楽器を演奏していたという言い伝えもあるという。このことを知っている *built* を *burned* に変えたしゃれが理解できる。

(5) Home is not built in a day.

(家庭は一日にしてならず。)

Rome と Home のしゃれになっている。内容的にも納得のいくもじりである。

[3] Where there's a will, there's a way.

(意志があれば方法は見つかる。)

山岸 (2003) には「日本の「精神一到何事か成らざらん」が「全精神を傾ければ、どんな困難な事でも必ず成し遂げられるものである」と堅苦しく、悲壮感漂わせるものになっているのに対して、英語のそれは意志・決意を持って何とか道は開けるものだと言っているだけである」とある。ジョーク、もじり (parody) の世界では *will* を「意志」の意味で用いることは少なく、「遺書、遺言」の意味で用いることが多いことは以下の例が示している。

(1) Where there's a will, there's an estate.

(遺書あるところに遺産あり。)

遺書を書くような人は遺産も遺すのであろう。

(2) Where there is a will, there are dissatisfied relatives.

(遺書あるところに不満な親類縁者がいる。)

この親類縁者たちは遺産相続に与らないのである。

(3) Where there's a will, there's a contestation.

(遺書あるところに異議あり。)

(4) Where there's a will, there's an inheritance tax.

(遺書あるところに、相続税あり。)

遺産には相続税がつきもの。

(5) Where there's a will, there's a lawsuit.

(遺書のあるところに訴訟がある。)

(6) Where there's a will, there always is a lawyer.

(遺書のあるところにはいつも弁護士。)

(7) Where there's a will, there's a wail. (Leo Rosten)

(遺書のあるところに悲嘆の声あり。)

Way と wail の類似音のしゃれが効いている。「悲嘆の声」とは遺産をもらえなかったことに対する嘆きと取るのがジョークの常識。

(8) Where there's a will, there's a way; but where there are many wills, there's no way.

(一つの意志 [遺書] のあるところに一つの道がある。しかし多くの意志 [遺書] があるとうとうしようもない。)

(9) Where there's a will, there's a wait.

(遺書のあるところに待ちがある。)

自分にも遺産のおこぼれが来ないかと待っている。

以下の2つは *will* を「意志」の意味で用いたと取れる例である。

(10) Where there's a will, there's a delay.

(意志のあるところに遅れがある。)

“Never put off till tomorrow what you can do today.” (今日できることを明日まで延ばすな) ということわざのもじり

“Never do today what you can put off until tomorrow.” (明日まで延ばせることを今日するな) を思い出させる。

(11) Where there's a will, there's won't.

(意志のあるところに否がある。)

Won't (*will not* の短縮形) を名詞として

使っている。

- (12) Where there is no patrol car, there is no speed limit.

(パトカーのいないところに速度制限はない。)

- (13) William Canby is credited with inventing the first computing scales, which proves that when there's a Will, there's a weigh.

(ウイリアム・キャンビーは最初のコンピューターを使った体重計を発明した功績があるとされているが、それはウイリという男のいるところに計量があることを証明している。)

Will は William の愛称のひとつ。他の愛称 Bill, Billy, Willie, Willy ではこのもじりは成立しない。Weigh は「重さを測ること」の意味で名詞として使われている。

#### [ 4 ] The pen is mightier than the sword.

(ペンは剣よりも強い。)

- (1) The pun is mightier than the sword.

(パンは剣よりも強い。)

Pun と pen のしゃれになっている。Pun (しゃれ) は時に強力な武器になりうる。

- (2) The pen is mightier than the sword, because no one has yet invented a ball-point sword.

(ペンは剣よりも強い、なぜなら先がボールになっている剣はまだ誰も発明していないのだから。)

ボールペンはあってもボール剣はない、ということ。

- (3) The pen is mightier than the sword — and considerably easier to write with.

(ペンは剣よりも強い—そして書くのがかなり剣よりも容易だ。)

確かに物を書く時、ペンの方が剣よりも扱いやすい。

- (4) “The Sing Sing football team wants to play the West Point team.”

“I wonder why Sing Sing wants to play the army?”

“They probably want to prove the pen is mightier than the sword.”

(「シンシンのフットボールチームがウエストポイントのチームと試合をしたがっているぞ」「なぜ陸軍と試合をしたいのかなあ」「きっとペンは剣よりも強いことを証明したいんだ」)

Sing Sing はニューヨーク州刑務所の俗称。West Point はニューヨーク州にある陸軍士官学校。刑務所の囚人チームは pen (<penitentiary 刑務所)の方が剣を持つウエストポイントよりも強いことを示したかった、というジョーク。

- (5) Confucius says: When talking about crime, the pen is not mightier than the sword.

Convicts can escape from the pen, but not from the cemetery.

孔子いわく「犯罪について言えば、ペンは剣よりも強くはない。囚人はペンから逃げることはできるが墓地からは逃げられない。)

囚人は pen (ムシヨ) から逃げることはできるが、剣で殺され墓に入れられたら逃げようがない、ということ。孔子がこんなことを言ったとは考えられない。いかにももっともらしく古今の有名人を持ち出すのもジョークの常套手段。

- (6) The pen is mightier than the ... pigs.

(ペンは ... 豚よりも強い。)

この pen は「(家畜などを入れる) 小さな囲い」豚は囲いから逃げることはできない。

Pen と pigs の頭韻によるしゃれになっている。

- [ 5 ] One man's meat is another man's poison.

(ある人の食べ物が別の人には毒。)

Meat は「肉」ではなく古語で「食べ物」の意。同じものでも人によって好き嫌い異なる、という意味のことわざ。

- (1) One woman's poise is another woman's poison.

(ある女性の上品な身のこなしは別の女性の毒である。)

Poise と poison の類似音のしゃれが効いている。ある女性の上品さは別の女性にとっては「何よ気取っちゃって嫌な感じ」ということになる。

- (2) One man's nerve is another man's nervousness.

(ある男の図々しさは別の男の神経過敏である。)

Nerve と nervousness 語尾音追加によるしゃれになっている。Nerve には「神経過敏」の意味も「あつかましさ」の意味もある。

- (3) Divorce: the proof that one man's mate is another man's poison.

(離婚：ある人の配偶者は別の人の毒である証明。)

Mate と meat のやや苦しいしゃれ。

- (4) A nervous missionary was captured by cannibals. Right away he was got into a stew and was profoundly stirred. The cannibal was heard to exclaim: "One man's meat is another man's parson."

(宣教師が人食い人種に捕えられびくびくしていた。すぐさま彼はシチューに入れられ徹底にかき混ぜられた。人食いが叫ぶのが聞かれた。「ある人の食事は他の人の牧師だ」)

Poison と parson の苦しいしゃれになっている。

- (5) One man's pun is another man's groan.

(ある人の駄じゃれは別の人のうめき声。)

Punster (駄じゃれ好きの人) にとって

は、駄じゃれを聞いてうめき声でも上げてくれた方が、まったく無反応、無視よりはまし。

- (6) One woman's past is another woman's pastime.

(ある女性の過去は別の女性の気晴らし。)

「あの人昔は…だったのよ」などと言って気晴らしをする。Past と pastime は語尾音追加のしゃれになっている。

- (7) One man's wit is another man's laughter.

(ある男の機知は別の男の笑い。)

機知にとんだ話には相手は笑って答える。

- (8) One man's drive is another man's funeral.

(ある男の運転は別の男の葬式。)

無謀運転が人の死につながる例は後を絶たない。

- (9) One man's junk is another man's rare antique.

(ある人のがらくたは別の人の珍しい骨董品。)

俗人にはただのがらくたにしか見えないものをせっせと集めている人がいる。

- (10) One man's superstition is another man's religion.

(ある人の迷信は別の人の宗教)

言い得て妙である。

- (11) One man's wage rise is another man's price increase. (Harold Wilson)

(ある人の昇給は別の人の値上げである。)

賃上げと物価の関係は切っても切れない。

Harold Wilson (1916-95) は労働党の政治家でイギリス首相を務めた人。

- [6] It is an ill wind that blows nobody good.

(誰のためにもならない風は悪い風だ。)

同じ事が起こっても得をする人もいれば  
損をする人もいる、の意味のことわざ。

- (1) Oboe: an ill wind that nobody blows good.  
(オーボエ: 吹いても誰のためにもならない悪い風。)  
オーボエのことには全く無知である筆者には理解できないもじり。オーボエの音は耳触りということか。
- (2) It's an ill wind that shows no pretty knees.  
(かわいい膝を見せないのは悪い風だ。)  
スカートをはいていることが前提。
- (3) It's an ill wind that blows the minute you leave the beauty parlor.  
(美容院を出た途端に吹く風は悪い風だ。)  
折角セットした髪が見るも無残になる。

**[7] Imitation is the sincerest form of flattery.**

(真似することは心から褒めること。)

Flattery は誠実さを伴わない「お追従」だが、人の言動を真似ることはその人を心から褒めることになるとして次の例が Ronald Ridout & Clifford Witting (1967) にある。

'My neighbour on the left thinks I made a magnificent job of reurfing our front lawn; he can't speak too highly of it.'

'What about the chap on the other side? Is he full of praise too?'

'No; but as soon as he saw how mine turned out, he began to reurf his own.'

'They say that imitation is the sincerest form of flattery!'

(「うちの芝生を見事に植えかえたら、左隣の人がうんとほめてくれた」 - 「右隣の人は何と言った? その人もべた褒めしてくれたか?」 - 「別に何も、でもこちらの出来栄を見たらすぐ自分の芝生を植え直してたよ」 - 「真似することは心

から褒めること」と言うね。]

- (1) Imitation is the sincerest form of television.  
(Fred Allen)  
(模倣はテレビの最も誠実な形。)  
テレビには独創的な要素がないということ。Fred Allen (1894-1956) はアメリカのコメディアン。テレビを嫌っていたという。
- (2) Imitation is the sincerest form of flattery—except when it's forgery.  
(模倣は最も誠実な褒め言葉である - 偽造文書を除いては。)  
ことわざをそのまま引用して、「ただし…」と付け加える形は extended proverb と呼ばれている。
- (3) America is proof that immigration is the sincerest form of flattery.  
(アメリカは移民が最も誠実な褒め言葉であることの証明である。)  
アメリカへ世界各地から移民が押し寄せたことはアメリカを心から褒めたことになる。
- (4) A nine-year-old boy was an avid stamp collector until the kid next door began a collection of his own. "He buys every stamp I buy," the boy complained to his father, "and has taken all the fun out of it for me. I'm quitting." "Don't be discouraged," advised his father. "Remember the old saying: Imitation is the sincerest form of philately."  
(9歳の男の子は熱心に切手を集めていたがついに隣の男の子も収集を始めてしまった。  
「あの子はほくが買う切手はみんな買うんだ」と彼は父親に不平を言った。「だからほくの楽しみを全部取ってしまったんだ。ほくやめるよ」「がっかりしちゃだめだよ」と父親。「古いことわざを思い出してごらん。真似は最も正直な切手

収集というだろう」)

Flattery と philately の類似音によるしゃれが言いたかったらしい。

[8] **It is more blessed to give than to receive.**

(貰うより与えるほうが幸せだ。)

この聖書の表現からできた “It is better to give than to take.” の形もある。

- (1) “It is more blessed to give than to receive,” as the school boy said when the master flogged him.

(先生が鞭でたたいた時の生徒の<sup>せりふ</sup>台詞のとおり「貰うより与えるほうが幸せ」。)

「先生は幸せです。叩かれる身にもなってください」と生徒は言ったのである。

- (2) It is more blessed to give than to receive— if you are a judge handing out a sentence— but lots of folks prefer others to have the blessing.

(貰うより与えるほうが幸せだ—もし君が判決を言い渡す裁判官なら—しかし多くの人は他の人たちに幸せを貰ってほしいと思うものだ。)

裁判官や弁護士が幸せになるのは許せない、と取れる。

- (3) Advice: the only thing more blessed to give than to receive.

(忠告：唯一貰うより与える方が幸せであるもの。)

助言・忠告はする方がされる方より幸せである。

[9] **Of two evils choose the less (er).**

(どちらも悪いことならひどくない方を選び)

- (1) I either had to walk the two miles to the station or ask old Jessop to give me a lift. As he's the worst driver I've ever met, I chose the lesser of two evils and walked.

(私は駅まで2マイル歩くか、ゼソップ老人に車に乗せてくれと頼むしかなかった。彼は今まで会った中で最悪の運転をする人だったので、ひどくない方を選んで歩くことにした。)(Ronald Ridout & Clifford Witting (1967))

- (2) When there are more than two candidates for public office, how are you to choose the lesser of two evils?

(公職に2人以上の候補者がいるとき、どうやってひどくない方を選ぶべきなのか。)

碌でもない輩が選挙に立候補するので選択に困るのである。

- (3) A group of friends used to go hunting regularly. They would pile into a car and drive to a good hunting spot. One day one of them informed the others that he had to give up the sport because his vision had become very bad. I can't hunt with you any more,” he said. “I might shoot one of you by mistake. So, from now on, I'll just do the driving.”

(仲間の友達は定期的に狩りに行くことにしていた。彼らは車にどやどやと乗り込みいい狩場に行ったものだった。ある日、ひとりが他の連中に視力がひどく悪くなったので狩りをやめなければならないと告げた。「もう君たちとは狩りはできないよ」と彼は言った。「間違っただかを撃たないとも限らない。だから、今から運転するだけにするよ」) 怖いのは飲酒運転だけではない。

- (4) The scandalmonger doesn't choose the lesser of two evils, but the one most likely to be talked about.

(悪口を言いふらす奴はふたつの悪のよりましな方を選んだりもしない。最も話題になりそうな方を選ぶ。)

より悪い噂を選ぶに決まっている、とい

うこと。

- (5) Of two evils, choose neither.  
(ふたつの悪のうちどちらも選ぶな。)  
バプテスト派の牧師 Charles H. Spurgeon  
の言葉であると Ronald Ridout & Clifford  
Witting (1967) にある。
- (6) Of two evils, choose the one you enjoy  
most.  
(ふたつの悪があったらもっとも楽しめ  
る方を選べ。)  
より悪い方を選べということ。
- (7) It is easy to choose the lesser of two evils  
when the greater has fewer attractions.  
(ひどい悪のほうが魅力が少ないとき、  
ひどくない方を選ぶのは簡単だ。)
- (8) Of two evils, choose the prettier.  
(ふたつの悪のうち可愛い方を選べ。)
- (9) The trouble maker chooses not the lesser  
of two evils, but the one most likely to  
cause trouble.  
(ごたごたを起こす人はふたつの悪のひ  
どくない方を選ばず、最もごたごたを起  
こしそうな方を選ぶ。)
- (10) When choosing between two evils, I al-  
ways like to take the one I've never tried  
before. (Mae West)  
(ふたつの悪から選ぶとき、私はいつも  
前にやってみたことのない方を選ぶ。)  
Mae West (1893-1980) はアメリカの女  
優・脚本家。全盛時には sex symbol と言  
われた。

**[10] There are two sides to every question.**

(どの問題にも二つの面がある。)

- (1) There are two sides to every question, as  
long as it doesn't concern us personally.  
(どの問題にも二つの面がある、それが  
個人的に関わりがない限り。)  
すでに述べた Extended proverb の例。個  
人的な関わりがなければ、客観的でいら

れる。

- (2) There are two sides to every question,  
and they are usually married to each other.  
(どの問題にも二つの面がある、そして  
通常二つは結婚している。)  
“married” とは「密接に結びついている」  
こと。
- (3) There are two sides to every question, es-  
pecially the judge's "Are you guilty or not  
guilty?"  
(どの問題にも二つの面がある、特に裁  
判官の「君は有罪か有罪でないか」は。)  
原告と被告では立場が正反対である。
- (4) There are two sides to every argument —  
until you take one.  
(どの議論にも二つの面がある — どちら  
かの面を選ぶまでは。)  
一方を選ぶと一つの面しかなくなる。
- (5) There are two sides to every question —  
the wrong side and our side.  
(どの問題にも二つの面がある、悪い側  
と我々の側と。)  
我々の側は常に正しいのである。
- (6) Every wife believes there are two sides to  
every question—hers and her mother's.  
(すべての妻はどの問題にも二つの面が  
あると信じている — 自分の側と母親の側  
と。)  
夫の側はない、ということ。
- (7) There are two sides to every story, until  
the gossips get hold of it.  
(どの話にも二つの面がある — おしゃべ  
り屋たちがその話を自分のものにするま  
では。)  
そして、おしゃべりにとって都合のいい  
より悪い方の話が急速に伝わって行く。
- (8) There are two sides to every question,  
and the clever politician can be found on  
both of them.  
(どの問題にも二つの面がある、そして



頭のいい政治家は両側にいる。

日本語の「内股膏藥」<sup>こうやく</sup>「二股膏藥」という表現を思い出させる。

(9) There are two sides to every question, and much can be said on both sides.

(どの問題にも二つの面がある、そしてどちらの側にも大いに言い分がある。)

(10) If there are two sides to every question, how come there's only one answer?

(もしどの問題にも二つの面があるなら、どうして答えが一つしかないのか。)

学生・生徒の言いそうな台詞。

## 終わりに

今回のことわざのもじり「落ち穂拾い」は、前に述べたように、比較的多く集まったものを取り上げた。文字通りの「落ち穂拾い」は次号で取り上げるつもりでいる。

### 参考文献

- 大塚高信・高瀬省三 [編] (1995) 『英語ことわざ辞典』 (三省堂)
- 奥津文夫 (1978) 『ことわざ・英語と日本語』 (サイマル出版会)
- 奥津文夫 (2000) 『日英ことわざの比較文化』 (大修館書店)
- 加島祥造 (1986) 『英語の中の常識』 (上) (下) (大修館)
- 三省堂編修所 (2006) 『新明解 故事ことわざ辞典』 (三省堂)
- 杉田 敏 (2004) 『人生を考える英語 - 名言・迷句

このひと言196』 (プレジデント社)

曾根田憲三・ケネス・アンダーソン (1987) 『英語ことわざ用例辞典』 (大学書林)

田中安行 (監修) (2002) 『音読したい英語名言300選』 (中経出版)

戸田 豊 (2003) 『現代英語ことわざ辞典』 (リーベル出版)

松野道男 (1985) 『ことわざの文化人類学』 (研究社)

Ronald Ridout & Clifford Witting (1967): *English Proverbs Explained* (Pan Books)

(中西秀男訳 (1973) 『常識としての英語の諺800』 (北星堂書店))

Rosemarie Jarski (2006): *A Word from the Wise* (Ebury Press)

John Simpson (1982), *The Concise Oxford Dictionary of Proverbs* (OUP)

Fred Metcalf (1987), *The Penguin Dictionary of Modern Humorous Quotations* (Penguin Books)

Leo Rosten (1994): *Leo Rosten's Carnival of Wit* (Plume Books)

J. B. Simpson (1988): *Simpson's Contemporary Quotations* (Houghton Mifflin)

(隈部まち子訳 (1994) 『世界を動かした名言』 (講談社))

梅棹忠夫・金田一春彦他編 (1989) 『講談社カラー版 日本語大辞典』 (講談社)

編集主幹 小西友七・安井 稔ほか (1993) 『ランダムハウス英和大辞典』 (第二版) (小学館)

山岸勝栄 (編集主幹) (2003) 『スーパーアンカー英和辞典』 (第3版) (学習研究社)

(ジョーク集については省略した。)